



田布院温泉  
YUFUIN HOT SPRINGS



由布市まちづくり観光局  
代表理事 桑野 和泉



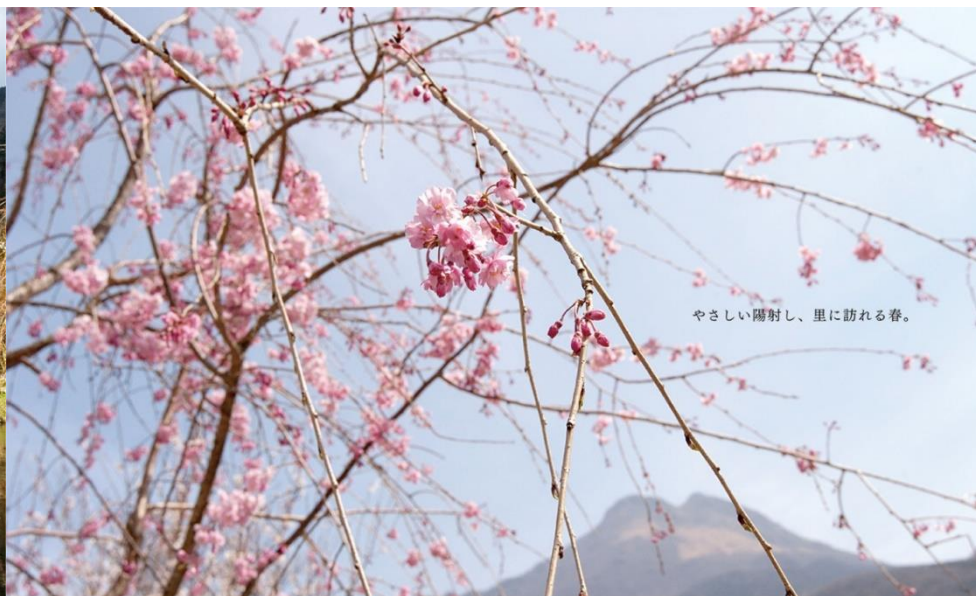
私たちの一日は、美しく雄大な  
由布岳を仰ぎ観ることから始まります



「野焼き」  
新たな息吹がもうすぐ聞こえてくる



静けさの空に、  
暮らしが感じられる佇まい



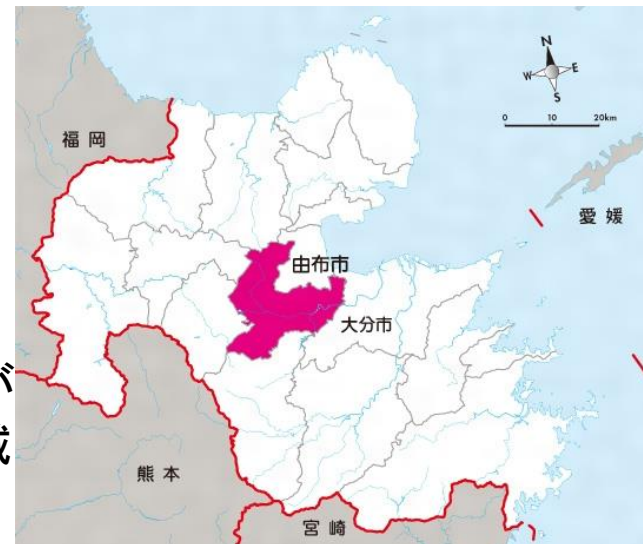
やさしい陽射し、里に訪れる春。





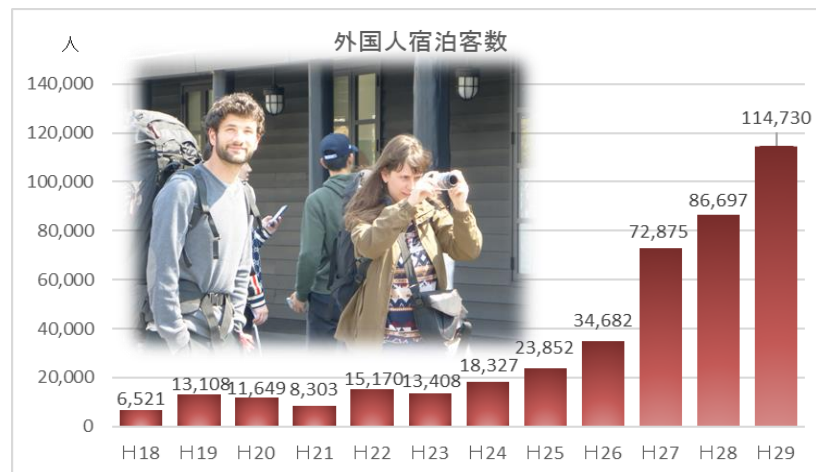
## <地域の概況>

- ・由布市(ゆふし)は、大分県のほぼ中央に位置し、北に由布岳、南に黒岳など標高1000m級の山々が連なる、豊かな自然に囲まれた小都市。一部地域は「阿蘇くじゅう国立公園」に指定されている。
- ・2005年10月1日に湯布院町、挾間町、庄内町が合併し、現在の由布市を形成。旧湯布院町を中核とした観光都市であると共に、隣の大分市のベッドタウンという異なる性格を併せ持つ。
- ・主な産業は、医療・介護等、公務、不動産、建設、宿泊業の5つで、中でも宿泊業の割合は他都市と比べて高く、由布市の特徴的な産業である。
- ・行ってみたい(あこがれ)温泉地ランキングで12年連続1位を獲得するなど国内有数の温泉地である「由布院」、鎌倉時代が開祖と言われ湯治場として栄えた「湯平」、強酸性泉が特徴の「塚原」で構成される豊かな温泉群は、「国民保養温泉地」にも指定されている。
- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づく国立公園満喫プロジェクトにおいて「阿蘇くじゅう国立公園」が選定されたことを機に、「国立公園ステップアッププログラム2020」に関する取り組みはもちろん、九州観光の拠点の一つとして他の周辺エリアとも連携を進めながら国内外からの誘客を促進している。



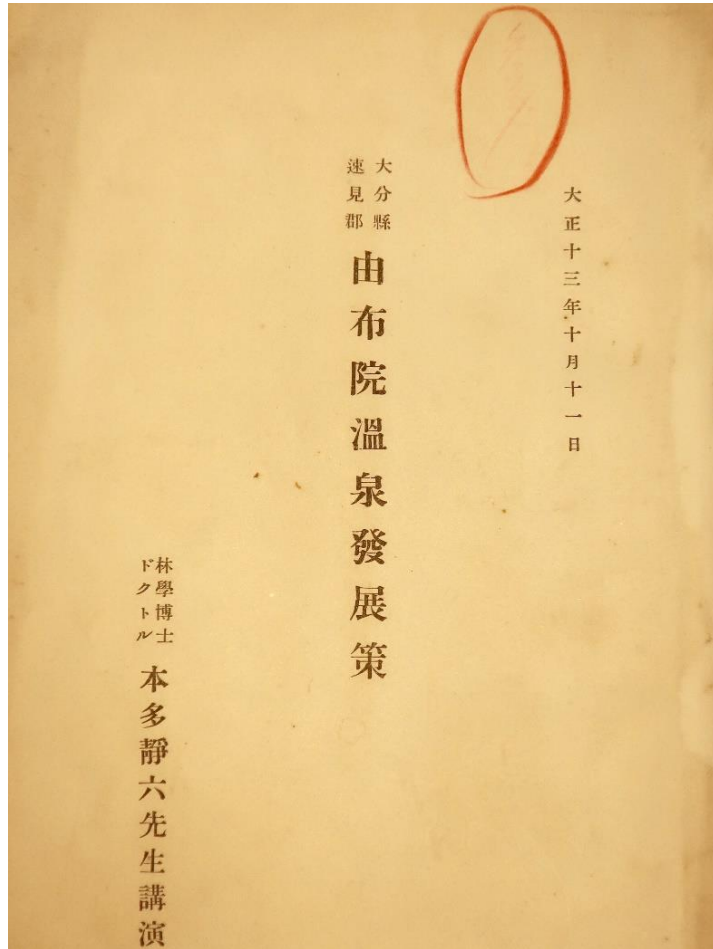


## <地域の観光現況・課題>



- ・昭和30年代後半より生活保養温泉地を目指した取組みが行われ、現在では約380万人もの観光客が訪れる日本有数の温泉観光地となっている。
- ・外国人観光客も平成17年は約4.6万人だったが、平成29年には約47.5万人に増加し、この12年間で約10倍に増加。
- ・外国人宿泊客数も平成18年の約7千人から平成29年の約11.5万人に増加し、この12年間で約18倍に増加。
- ・由布院への鉄道アクセスは、博多-別府間を結ぶJR特急ゆふいんの森号により乗り入れが主流。その他、国道210号や、由布岳・別府に抜ける県道216号、県道11号(やまなみハイウェイ)等の幹線道路がまちの周囲を走り、広域交通アクセスを担保。
- ・一方まちなかは、観光車両の増加により交通渋滞が激化し、地域住民の生活や緊急車両の通行に支障をきたしている。また、歩行者の安全性低下や生活環境が悪化し、まち並み景観にも悪影響を与えている。

# 由布院温泉発展策



# 滞在型保養温泉地

# 出会うの場として 1

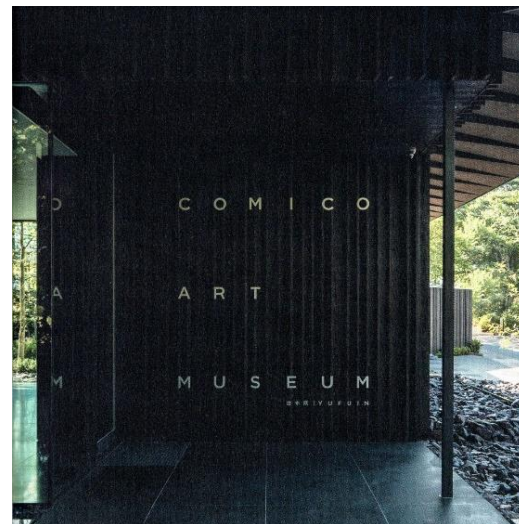
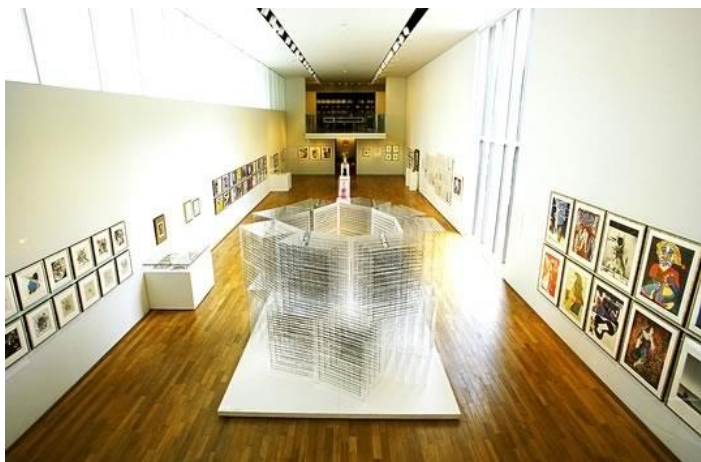


- 牛喰い絶叫大会
- 湯布院映画祭
- ゆふいん文化・記録映画祭
- ゆふいん子ども音楽祭
- ゆふいん十月祭・食文化フェア
- ゆふいん音楽祭





# 滞在型保養地 出会いの場として 2



© NHN JAPAN Corp.





# 滞在型保養温泉地 出会いの場として 3





# 滞在型保養温泉地 ～由布院の食卓 生産者とともに～





# 誰もが楽しめるまちを目指して～辻馬車 時速5キロ



由布院観光辻馬車ルート図



# アシタのアシプロジェクト

道の駅ゆふいん(多機能利用)

至 大分市



道の駅を利用したモーダル  
コネクトによる渋滞解消  
(自転車・電気自動車等)



観光バス



由布岳や農村・自然景  
観を望む風景を確保



道の駅  
ゆふいん

観光バス  
乗用車



湯布院IC



大分自動車道

由布院駅

ツーリスト・インフォメーション・  
センター



乗用車

狭霧台

地域コミュニティ・観光支援  
(自動運転車両)



至 福岡



ゆふいんの森号



コミュニティ交通と観光交通の連携  
(シェアサイクル、次世代モビリティ 等)

次世代モビリティルート(案)

新交通の導入  
(自動運転車両(電気自動車))



シェアサイクル



南由布駅



乗用車



- 「アシタのアシ プロジェクト」 とは？

「アシタのアシ」とは、由布院に暮らす人にも、由布院を訪れる人にも快適な「未来の乗り物」や「未来の交通システム」を指す言葉であり、その実現へ向けて挑戦する組織活動が「アシタのアシ プロジェクト」です。

「アシタのアシ」は、利用者の快適性に加え、地域環境・地球環境への取組みも見据え、「明日の楽しい&頼もしい足」を実現するという、私たちの「宣言」でもあります。



New Object for Lively Community

- 「Nolc / ノルク」 とは？

「Nolc / ノルク」は。今回導入する「e-COM8<sup>2</sup>」の愛称です。  
生き生きとした地域を実現するための新しい物体（乗り物）という意味付けをしています。

時速20km/h未満という「グリーンスローモビリティ」での域内移動は、暮らす人にも訪れる人にも、新しい経験をもたらすはずです。  
そのひとつが、乗ることと歩くことの「連続性」。  
少し乗って景色を楽しみ、少し歩いて買い物を楽しみ……。  
乗る、歩く、乗る、歩く、乗る……。

「ノル」と「アルク」が、ひとつになることから生まれる心地よさ。  
「ノルク」は、未来の移動を表す「動詞」でもあります。



# 布院町中心部で実証事業“発

由布市湯布院町で11日、時速20キロ未満で公道を走る4人乗り以上の電気自動車（EV）「グリーンスローモビリティ」の実証事業がスタートした。



由布市湯布院町のJR由布院駅前を走る電気自動車＝11日、由布市湯布院町

## 料金は無料、スマホで予約

「道の駅ゆふいん」を出入発し、町中心部に向かうルートでの検証も予定している。

出発式で相馬尊重市長が「交通課題の解消につなげ、観光の魅力向上を図っていききたい」とあいさつ。EVの愛称を「乗る」と「歩く」を一つにした「nolc」と発表し、出席者はEVに乗り込み、ゆったりと由布岳の風景などを楽しんだ。

利用希望者は市ツーリスティングフォーメーションセンターや市湯布院庁舎などで配布するチラシの2次元コードを読み込み、予約する。予約できるのは利用当日のみ。

# 速電動バス 湯布院（天駒

街なかの新しい移動手段として活用しようと、由布市は低速の電動バスを走らせる実証実験を、同市湯布院町で20日から始める。開始を前に11日、市ツーリスティングフォーメーションセンターで出発式があった。

実験では最高時速20キロ未満で走る車両を、由布院駅周辺の約1・4キロ四方の中で運行する。運転手を含め10人が乗車可能で、一般の人も利用できる。運賃は無料。由布院駅や湯布院病院、由布院ステンドグラス美術館など20カ所まで乗り降りができる。



運行は毎日午前8時～午後5時。雪や路面凍結などに

気象条件が悪い場合は運休する。市総合政策課によると、バッテリーは4時間半で充電でき、一度に約38キロ走行可能という。利用希望者は事前に乗降予約サイトに登録し、利用時に同サイトで乗降場所や人数、時間を予約する。予約受け付けは当日のみ。登録された乗降地点なども

事前に設定されたルートの中から最適なものを選んで走る。

実験は、二酸化炭素の排出量削減や観光地の渋滞緩和、高齢者らの移動手段確保など地域の交通課題を同時に解決するための国の事業を活用。3月15日まで実施し、利用が多い時間帯や乗降地点などを調べる。

出発式では、同市の相馬尊重市長が「事業を通じて交通課題の解消や観光地としても魅力向上につなげるよう取り組みを進めていきたい」とあいさつ。バスの

## 愛称「nolc」 高齢者や観光客の足に

同市ではコミュニティバス「ユールバス」が30路線あり、地域住民の足になっている。ただ、スクールバスや旧町と市役所を結ぶシャトルバスを除き、運行は平日の週2日だけ。市民の65歳以上の割合は33%（昨年12月末時点）にのぼり、高齢者の移動手段の確保も課題となっている。

また、同市は観光客が多く訪れることから、街なかの渋滞解消も課題の一つ。出発式で、九州地方環境事務所の岡本光之所長は「観光客や交通弱者の移動手段の確保という点でも、この問題も解決する野心的な取り組み。全国モデルになる」と期待感を示した。

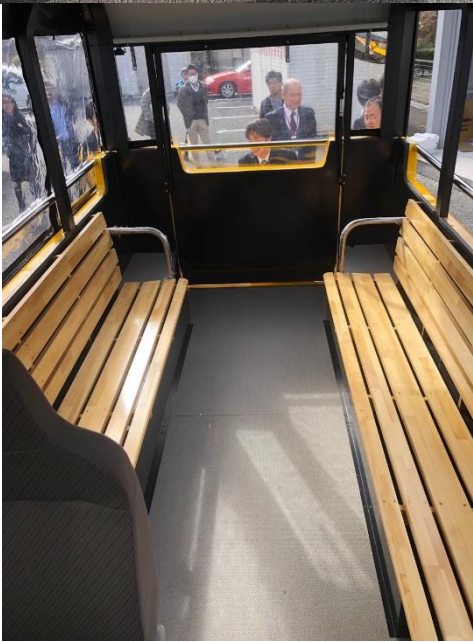
5～7月には範囲を拡大し、JR南由布駅や大分道湯布院インターチェンジから町中心部への乗り入れの実験も行う予定だ。9～11月には有料化などを確認。2021年度まで実験

豊後 3号 10 4  
た近 3号  
ん(9  
社員  
する  
られ  
搬送  
ケ 今年初の入札会 県推其農協



# nolc

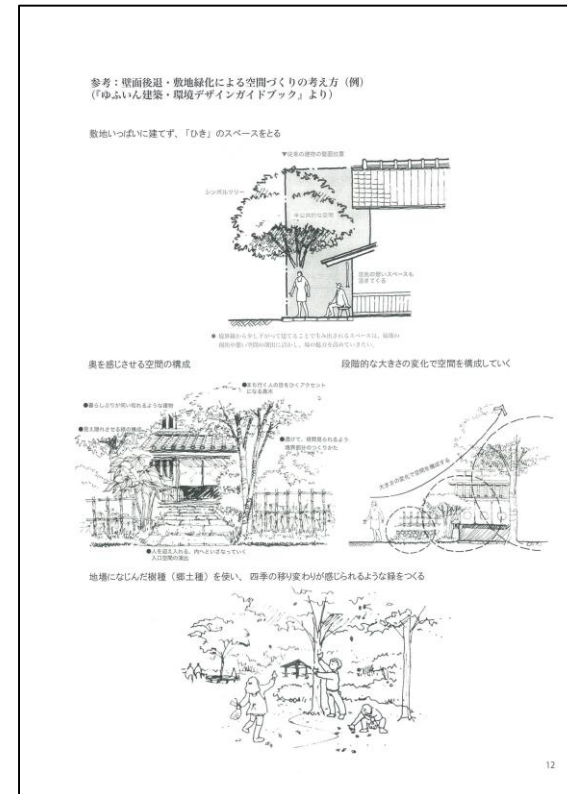
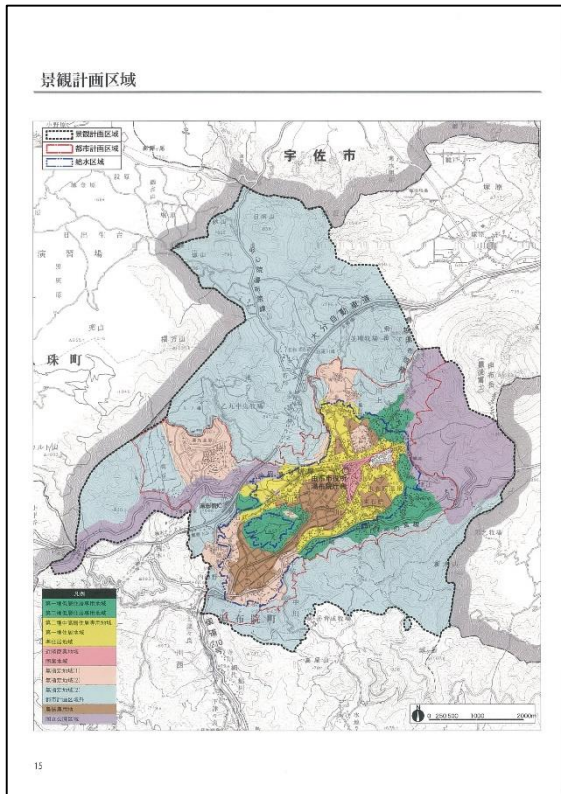
## New Object Lively Community





# 滞在型保養温泉地 景観・環境

- 1990年 潤いのある町づくり条例
- 1996年 由布院温泉観光基本計画
- 1998年 由布院建築・環境デザインガイドブック(第1版)
- 2002年 社会交通実験
- 2008年 湯の坪街道周辺地区景観計画・景観協定
- 2013年 由布院盆地景観計画





# 由布院観光の理念

- ・由布院の観光を支える大きな柱は『自然』であり、大事に育まれてきた『環境』『景観』が最大の観光資源である
- ・程よい大きさの由布院盆地の中で、生活のスケールにあった心地よさと生活を豊かにする小味で多様な魅力が安らぎの空間と個性ある街を創る
- ・一人ひとりの顔が見える交流が、無限に広がる情報や物の流れの中から新たな価値を見出し、生活を豊かにしていくとともに、魅力あるものが創造されていく

今後もこの理念を磨き上げ、継承していくために、宿泊施設や物販・飲食施設といった観光関連施設について、周辺店舗や地域全体に溶け込めるよう**開発規模を3,000 m<sup>2</sup> (延床面積) 以下**とすることを基本とし、外観については「由布院盆地景観計画」および「湯の坪街道周辺地区景観計画」の基準を遵守するとともに、これまでの由布院における商売に対する考え方や行動を守っていくことが大事となる。(次頁「湯の坪街道周辺地区景観協定・紳士協定」参照)

また、宿泊施設については、由布院観光を持続可能な地域とするため、従前より調整を図ってきた開発規模である**15室程度(最大で30室程度)**とすることを基本とする。



## 「滞在型保養地」理念共有、継承へ

由布院温泉観光協会と旅館組合、観光地としての在り方を示した基本計画を掲げ、外国人客の増加、旅館・商店の参入増加、世代交代といった変化に対応しながら、湯の坪街道周辺地区の理念を共有、継承していくため、おまじま体的な方針として、「滞在型保養地」の理念を共有、継承していくこととする。

由布院温泉観光基本計画「旅館」として、生業の在り方として、初めての全面改訂について「短期的利益を追求せず、自然環境・社畜調和し、共存共栄を追求し、地域の発展や観光客の増加を促すこと」を掲げ、具体的なイメージの顔が見える仕組みの、環境や景観は、

由布院温泉観光基本計画「旅館」として、生業の在り方として、初めての全面改訂について「短期的利益を追求せず、自然環境・社畜調和し、共存共栄を追求し、地域の発展や観光客の増加を促すこと」を掲げ、具体的なイメージの顔が見える仕組みの、環境や景観は、

### 環境変化に対応 「あるべき姿、未来に」

ちんぷらんと個性あるものと提示、「旅館」の規模は3,000平方メートル以下、なごりとして、旅館組合の理念を整理して、現状に即した計画を本年度中にまとめる。

現在の計画は由布院温泉の知名度が全国的に高まっている。観光客は異なると、滞在型保養地を目指す独自の価値基準を確立し、観光客の増加に合わせた観光客の受け入れ体制を整える必要がある。観光客の増加に合わせた観光客の受け入れ体制を整える必要がある。

観光客の増加に合わせた観光客の受け入れ体制を整える必要がある。

観光客の増加に合わせた観光客の受け入れ体制を整える必要がある。

観光客の増加に合わせた観光客の受け入れ体制を整える必要がある。





